



糸賀一雄研究の新展開 : 『糸賀一雄研究の新展開ひとと生まれて人間となる』 (三学出版) の特徴・論点・課題

渡部, 昭男

(Citation)

日本特殊教育学会第59回大会

(Issue Date)

2021-09-20

(Resource Type)

conference object

(Version)

Accepted Manuscript

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/90008609>



日本特殊教育
学会第54回大
会@筑波大学

2021.9.19-21
オンデマンド開催

糸賀一雄研究の新展開

『糸賀一雄研究の新展開

ひとと生まれて人間となる』

(三学出版) の特徴・論点・課題

○渡部 昭男

(大阪成蹊大学 [特別招聘教授])

キーワード KEY WORDS

糸賀一雄研究 Kazuo Itoga Research、領域横断 cross-disciplinary、
ひとと生まれて人間となる born as persons and become human beings

I. 糸賀本の出版と「索引」を用いた論点析出

- 糸賀一雄研究会＝2014生誕百年を機に有志で発会
- 渡部昭男・國本真吾・垂髪あかり編／糸賀一雄研究会著の『糸賀一雄研究の新展開 ひとと生まれて人間となる』（糸賀本）が、2021年2月に糸賀ゆかりの天津市にある三学出版から出された。
- 本報告では、糸賀本の特徴、「ひとと生まれて人間となる」を巡る論点、課題をまとめる。論点に関しては、「索引」作成過程で用いたPDFデータ検索により、複数論考にまたがって頻出するキーワード（注記・図表を除く本文中での使用頻度）に注目して析出した。

特設サイト『糸賀一雄研究の新展開』から確認可能

<https://sites.google.com/view/itogakenkyubook/home>

InformationやGuidanceのコーナーでは諸情報も入手可能

目次・執筆者等について

特設サイト『糸賀一雄研究の新展開』 ... home information guidance voice

糸賀一雄研究の新展開
ひとと生まれて
人間となる

渡部 剛男
國本 真吾
重安 あかり 編
糸賀一雄研究会 著

【本書の内容】

第1部 実践と思想の往還から

第1章 近江学園初期における糸賀一雄と教育について（高永健太郎）
第2章 糸賀一雄の生涯とその思想（蜂谷徳隆）
第3章 びわこ学園における「発達保障」思想の実践化過程—重症心身障害児者への「本人理解」のあゆみ—（重安あかり）
第4章 教育における生産性について—木村素衛「形成（性）」と糸賀一雄「生産（性）」—（門前斐紀）
第5章 糸賀思想を「ミットレーベン」への思いから読み解く—故郷の地・鳥取での足跡を辿りながら—（國本真吾）
コラム1 糸賀一雄の「魂のふるさと」松江（川内紀世美）

第2部 友誼・同志の苦闘から

第6章 近江学園草創期と戦争孤児・浮浪児たち—田村一二の記録から—（玉村公二彦）
第7章 この子らは世の光—「夢の人」「実の人」池田太郎の実践思想—（山田宗寛）
第8章 岡崎英彦「エモーショナルなもの」の展開—糸賀一雄「生命思想」を出発点として—（遠藤六郎）
コラム2 特別支援教育史を展示するという試み（和崎光太郎）

第3部 実践現場の諸相から

第9章 障害児入所施設からみた子どもの「貧困」（森本創）
第10章 相談支援の実践を通じて考える糸賀一雄の思想（増野隼人）
第11章 糸賀一雄と田村一二におけるケアの肯定的側面の探求—障害児（者）支援の仕事の経験と意味—（中山慎吾）
第12章 糸賀一雄と憲法における「人間の尊厳」—「津久井やまゆり園事件」を契機として—（山崎得文）
コラム3 草津市の発達支援システム（大西豊・中村順子）

第4部 国際的な視点から

第13章 糸賀一雄の思想とマーサ・C・ヌズバウムの可能能力アプローチの比較（中野リン、訳：永岡美咲）
第14章 韓国における障害児教育・福祉保障—糸賀一雄の実践と思想に学ぶ—（金仙玉）
コラム4 糸賀一雄を学び、より深めるために—優生思想を超えて—（平田柳政）

「この子らと世の光」で知られる、障がい福祉の父・糸賀一雄の思想を現代に受け継ぐ学術書

糸賀一雄研究の新展開
ひとと生まれて
人間となる

2021.2. 刊行

編 三上浩章 発行
高瀬剛男・國本真吾・重安あかり 編 糸賀一雄研究会 著

糸賀一雄に贈られた研究者・実践者による18篇の論議、5つのつづき、そして資料を収録

糸賀一雄の思想を現代に受け継ぐ学術書

糸賀一雄の思想を現代に受け継ぐ学術書

Ⅱ. 特徴：領域横断等による多彩な論考15篇・コラム5篇・資料1篇からなる5部構成の多角的アプローチ

- 糸賀本は、糸賀一雄・木村素衛関連の博論執筆者である、中山慎吾1991・蜂谷俊隆2012・門前斐紀2017の3氏を含む多彩な論考15篇、コラム5篇、資料1篇から編まれており、領域・職域・世代・国境を越えての糸賀一雄研究の新展開を志向している。
- そして、第1部：実践と思想の往還から、第2部：友垣・同志の苦闘から、第3部：実践現場の諸相から、第4部：国際的な視点から、第5部：若い世代へ、といった5部構成による多角的なアプローチによって、生誕百年・没後50年を経た今日において改めて、糸賀一雄研究の意義と可能性を問わんとしている。

Ⅲ. 論点①：

人格、
人権、
尊厳、
尊重、
生命、
ケア

特にLynne NAKANO
(香港中文大学) 論考

- 文化人類学の中野リン・永岡美咲訳（香港中文大学）「糸賀一雄の思想とマーサ・C・ヌスバウムの可能カアプローチの比較」（4部13章）は、
- 1960年代の糸賀のメッセージは、その時代だけでなく、現代にも先駆けている
- ヌスバウム（1947-）の可能カアプローチと糸賀の思想は非常に似ている
- 社会正義の考え方は決して欧米だけのものではなく、糸賀の思想も大きく貢献する
- 各発達段階や教育愛の説明は糸賀のほうが優れている
- 糸賀の思想は可能カアプローチを補完するものであるとこれまでの糸賀研究にはない新たな指摘を行っている。

つづき

- 中野論考は、憲法学の山崎将文（京都橘大学）「糸賀一雄と憲法における『人間の尊厳』」（3部12章）との間で、「人格、人権、尊厳、尊重、生命」の主に5つのキーワードにおいて深めるべき論点を有している。
- また中野論考と社会福祉学・福祉社会学の中山慎吾（大分大学）「糸賀一雄と田村一二におけるケアの肯定的側面の探求」（3部11章）とは、特に「ケア」のキーワードにおいて深めるべき論点を有している。

表1. 論点①中野－山崎－中山

用語	中野リン	中山慎吾	山崎将文	他論考
人格	2	—	15	16
人権	7	—	8	1
尊厳	13	—	56	1
尊重	11	—	11	5
生命	3	1	26	72
ケア	23	16	—	6

つづき

- これら3論考のオンライン合評会「糸賀一雄の思想と実践」（日本教育学会近畿地区2021.3.30）を開催し、当日資料をウェブサイトにはアップしている。糸賀本の読み解き及び文化人類学、社会福祉学・福祉社会学、憲法学からの検討・対話のための共有財産としたい。
- チラシ <http://www.lib.kobe-u.ac.jp/repository/90008076.pdf>
- 中野 <http://www.lib.kobe-u.ac.jp/repository/90008077.pdf>
- 山崎 <http://www.lib.kobe-u.ac.jp/repository/90008078.pdf>
- 中山 <http://www.lib.kobe-u.ac.jp/repository/90008079.pdf>

IV. 論点②： 生産性、 重症児、 発達、 ヨコ・横

- 社会福祉学の蜂谷俊隆（美作大学）「糸賀一雄の生涯とその思想」（1部2章）、重症児教育の垂髪ウナイあかり（神戸松蔭女子学院大学）「びわこ学園における『発達保障』思想の実践化過程」（1部3章）、教育人間学の門前モンゼン斐紀（金沢星稜大学）「教育における生産性」（1部4章）は、「生産性、重症児、発達、ヨコ・横」の4つのキーワードにおいて深めるべき論点を有していよう。

表2. 論点②蜂谷－垂髪－門前－中野

用語	蜂谷俊隆	垂髪あかり	門前斐紀	中野リン
生産性	7	—	14	4
重症児	6	37	10	—
発達	8	34	3	11
ヨコ・横	1	2	1	—

つづき 「生産性」

- 中野論考は、又スバウムの「人間は、生産的であることによって、他者からの尊重を勝ち取らなくてもよい。人間は、人間のニーズそれ自体の尊厳のなかに、支援に対する権利要求を有している。社会は幅広い愛着と気遣いによって結びついており、生産性に関係しているのはそのなかのほんの一部にすぎない。生産性は必要であり、またよいものでもあるけれども、社会生活の主要目的ではない」との一文を引用している（糸賀本p.207）。
- 門前・山崎論考は、糸賀の「肉眼では到底とらえることのできなかつたような、なまな、いきいきした、生命いっぱい、生産的な姿」という箇所（同p.67・193）、蜂谷・國本論考は「心身障害をもつすべてのひとたちの生産的 생활がそこにあるということによって、社会が開眼され、思想の変革までが生産されようとしている」という箇所（同p.37・83）を引いている。
- 重症児者実践の創出と蓄積を踏まえて、糸賀は「生産性」の概念そのものを変革し、拡張しようとしている。

つづき
糸賀一雄の
「生産性」を
巡る対話：領
域横断による
読み解き
2021.8.25開催

日本教育学会第80回大会
The 80th Annual Conference of Japanese Educational Research Association

ラウンドテーブル 8月25日(水) 15:15~17:15

【B】糸賀一雄の「生産性」をめぐる対話：領域横断による読み解き

企画者：渡部 昭男 (大阪成蹊大学)
同上：國本 真吾 (鳥取短期大学)
司会者：渡部 昭男 (大阪成蹊大学)
同上：金丸 彰寿 (神戸松蔭女子学院大学)
報告者：蜂谷 俊隆 (美作大学)
同上：垂髪 あかり (神戸松蔭女子学院大学)
同上：門前 斐紀 (金沢星稜大学)
同上：NAKANO Lynne (香港中文大学)

《趣 旨》

日本教育学会近畿地区主催のオンライン企画「糸賀一雄の思想と実践」(2021.3.30、参加登録 133 人)では、糸賀一雄研究会著『糸賀一雄研究の新展開ひとと生まれて人間となる』(三学出版 2021)に執筆した三氏にご登壇いただき、「糸賀一雄の思想と実践」について文化人類学、社会福祉学・福祉社会学、憲法学からの読み解きを進めた。そこで出された重要テーマ「可能性」「ケア」「生産性」「共生」「尊厳」などの内から、今回は特に「生産性」に焦点をあてた。本学会会員に加えてゲスト二氏を招いての対話を通じて、領域横断(社会福祉学、重症児教育学、教育人間学、文化人類学)による読み解きをさらに一歩深めたい。

V. 更なる課題：ひとと生まれて人間となる

- ・遠藤六朗（元びわこ学園）は担当章「岡崎英彦『エモーショナルなもの』の展開」（2部8章）と重ねつつ2021.3.30企画から「ある・存在・アガペ」と「なる・形成・エロス」に加えて「なっていく」ものという可能力・可能性としての把握に示唆を受けたと述べている。「ひとと生まれて人間となる」は糸賀が最後の講義（1968.9.17）で用いた重要なフレーズであり、「この子らを世の光に」「共感の世界」「愛の育ち」等とともにその意義と価値を更に深めたい。
- ・参考文献：渡部昭男2021「自著を語る『糸賀一雄研究の新展開 ひとと生まれて人間となる』」『研究論叢』（27）神戸大学教育学会